

# 月刊反トマホーク通信

No. 28  
88. 2. 20  
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰虫社 ☎03(498)6095  
044(63)5101



## ■ピース・スピリット88を成功させよう

「軍隊」の正体をあらわにした自衛隊

大島 薫

韓国の新聞から

チーム・スピリットと反核運動

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1日 2000円  
個人 1日 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1日 1000円  
個人 1日 500円

●通信会員

年間  
2000円

会費はすべて本紙購読料を含みます

あなたも仲間！

力の三の環

## ■ピース・スピリット

トマホーク艦の日本母港化　ペラウ・  
フィリピン・韓国の激動、日本の軍拡…  
歯止めなく軍拡がすすむ北西太平洋  
をどうするか

● 1988.3.6 AM10:30～PM8:00  
● 東京・文京区民センター

ようなことを仕掛けることであり、それはまた、人間の意志で喰いとめることも出来る筈。その最たるものは、原爆と戦争」と考えるようになりました。

あの頃に比べると、今はまさに国難の時代！現に私達は、伊方原発の出力調整実験中止の署名を集め、明日十二日は、高松へ持ってゆくのですが、明日午前九時、実験を行うそうです。

日本に現在、原発が三十五基稼働し、目下建設中が十六基とか。これは一触即発の大惨事になりかねない！恐ろしいことです。

原発実験に目を向けている間にも、海のＩＮＦは、着々増強され、米韓合同軍事演習、トマホーク艦ファイフの横須賀母港化（核ト

マホーク一発で、広島型原爆十五発分の破壊力)、ファイフは、四十五発のトマホーク(INF)を持つので、合計六七五発の核が横須賀に持ち込まれることも分かつて来ました。

既に、日本列島は、軍事基地となりはて、核兵器、原発、核廃棄物などで核まみれの現状です。

日本は言葉としては、よく民主主義を言う割に、自主の確立が出来ていないようで、よその国の従属国となり、日本の存在すら危うくなっている時、反公害団体自らが考えて「ピース・スピリット八八」に参加することが決まったことは大きな感慨です。

[illegible]

いのちの音へ

## 88を成功させよう

一人からでも  
始めていこう

北村 弓(兵庫)

5年程前、下の子をおぶりがら「ウラン採掘反対、インディアンの人々の被爆を止めて」という署名を近所をまわって集めたのが私にとっては始めての行動の一步だった。

それからしばらくして家事や育児の合間から「百番目のサル」ぬりええほんを書いた。あつという間に手から手へ、日本中にこの絵本は送られて、そして返ってきた共感の声、

私はこの事実、どれほど大きく励まされたことだろう。たった一人は無力だと、あきらめてしまうことはできなかったから。

現在に至るまで、数限りない人たちとの出会いがあり、会うことができずとも確かにつながった仲間がいる。私はそれらの人々とのつながりの中で学び続けている。共に学び気づき合っている。

誰にでも平和のために何かできる。一人で何か始めることはできる。三宅島で、白保

で、逗子で、六ヶ所村で、生きることそのものが、平和のための運動となつてゐるところ、たとえ、その場に自分はいなくとも、彼らの声が、いつでも聞こえるようにと思う。そして海を越えてペラウ、フィリピン、韓国、そしてインディアンと呼ばれる人々の声も。そのために自分に何ができるかと考え続けている。

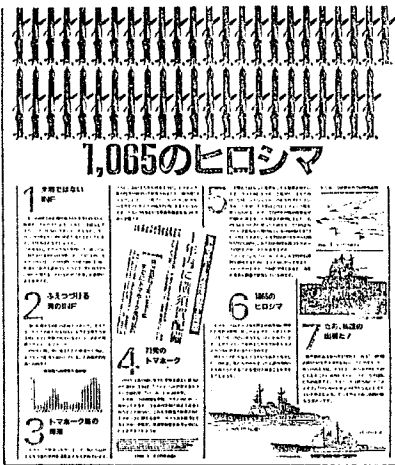
核と戦争は人間の意志で  
くいとめることができる

沖  
三保子

(公害をなくす三原市民連絡会)

私達の会が出来て、十六年経ちました。その前年、水俣の映画を見て、胎児性水俣病の子供たちの健気な姿に「二度とこのような事を起しては!」と、走り出したのです。

あの頃は公害もまだいくらかのんびりして  
いました。大気、水中汚染、中性洗剤、食品  
添加物、農薬などに取組みながら、新しい住  
民組織には、先生もお手本もなく、とにかく  
自分たちで考え、手探りで歩むしかなかった  
のですが、そのうち段々「公害とは、人間が  
自分たちの欲のために、他の生存を阻害する



ヨコスカ...  
日曜日の朝、5万枚の新聞  
おりにみ4ラシが配られた。

## 市長への手紙

### 【「核問題は心にずっしり重くのしかかってくる最たるもの……」】

1984年10月1日の神奈川新聞のインタビュー記事で、この街をお訪ねの核問題について、横浜市市長はこうに言いました。さらに、トマホーク艦の入港拒否を求めた「市民の署名」に応え、「5万人余の市民の非核署名の意志を代表して、市長として最大限の努力をしよう」ということ。

### 【外務省へ】

以降、ヨコスカ市はトマホーク艦の優先艦である、ロスアンゼルス級原子力潜水艦の入港のために外務省へ出向き、核搭載の有無をもう一度確認してほしいと訴えつづけています。日本政府のいう「非核の証明」を信じられないからその、くりかえしなのでしょう。市民はそうに理解し、だからこそ期待もしています。

### 【「持ち込まず、に至りますと、なかなかややこしい要素を持っております。】

87年9月の定例会で市長の答弁です。市長のいう「ややこしい要素」を市民のコトバで言えば「疑惑」、言い方はさまざまですが、核は持ち込まれていないと断言できない、との結論は市長も市民も同じです。

### 【そして、ついにトマホーク艦の「母港」発表！】

「ファイフ」「バンカーヒル」と、たてつづけにトマホーク艦の母港が発表されました。市長は「安保を肯定する立場から母港は拒否しない」と市議会に答えました。しかし核武装が明らかになれば入港には断固反対する、とも。アメリカが核の有無を明らかにしない政策をとっている今、核武装が明らかになると、とはどんなときなのでしょう。核事故？それとも核戦争？でも、そのときはおそすぎるとは思いませんか。

### 【データはそろっている】

「ファイフ」「バンカーヒル」がトマホーク艦を搭載してヨコスカにやってくることは、米議会証言によって明らかになっています。これまでの核とは比較にならないほど、配備状況が「公開」されているのが、トマホークという核兵器の特徴なのです。

### 【それでも日本政府は、しらを切りつつけるでしょう】

だからこそ「疑惑」というものが生まれ、私たちはそのくらやみの中でもかき回しているのです。しらを切りつつける日本政府にグタをあずけたままでは、(核疑惑)はいつまでもたつては消えることはないでしょう。

### 【母港そのものの拒否を！】

くりかえします。「ファイフ」「バンカーヒル」はトマホーク艦をつんで私たちの街を母港にしようとしています。そのトマホークは明らかに核搭載艦です。そうではない、という資料は見つかりません。市民の「非核」の願いを代表する市長の「勇気」を、この街のすべての人が見守っています。一刻も早く、トマホーク艦の母港を拒否して下さい。

### 反トマホーク草の根署名運動

横浜市大港町1-25 大倉法律事務所 TEL (22) 0287

このチラシについてのご意見をあわせて下さい。また制作・配布に多くの費用が掛かりました。カンパをぜひお寄せください。



横浜市民の一人として、木村武志  
「反トマホーク草の根署名運動」において、「ファイフの  
母港拒否」に反対する決議が採択されました。彼ら  
は私たちの運動をじつと支持しています。特に米軍の核  
武装に苦しむ小さな島々に住む人々から厳しい批判と意  
識が寄せられました。  
「田原化」によって太平洋上での核戦争への危機が一  
層と強まることに反対の声をあげていきましょう。

## 「西太平洋軍拡」 のすすめ

日米「有識者」の  
安保共同提言

一月一日、新年早々の朝日新聞に小さな記事がまぎれこんでいた。

日米の安全保障問題専門家の研究グループである「アジア・太平洋安全保障会議」と、防衛庁の外郭団体の「平和・安全保障研究所」が、共同で「一九九〇年代の西太平洋における日米安全保障政策に関する提言」をとりまとめた、というのだ。

そこでは、アメリカにとっての西太平洋地域の重要性を指摘し、アメリカが「経済上の困難から戦略及び政策の変更を行うことは避けなくてはならない」とまず訴えるとともに、日本に対しては①日米地位協定改定による在日米軍経費負担の増加②紛争地域への援助も

含めた経済協力の拡大③国際的警察機能への参加(自衛隊海外派遣)④通常兵器防衛構想(CDI)での日米開発協力⑤有事態勢を整えるための予備自衛官制度の大幅拡大などが強調されている。

提言のメンバーは日本から高坂正楚東京大学教授、神谷不二慶大教授、佐伯喜一郎野村総研相談役、米側からはローエン・スタンフォード大教授、ローチ・ノースロップ社副社長ら。いずれも日米両政府の政策決定にかなりの度

## 私はファイフを見ました

ポート・ウオッチ情報

「反トマ通信」第二十六号でお知らせしたとおり、「海軍の軍備撤廃を！太平洋運動」の研究グループ・ワークは各地の研究者や運動グループにファイフの動向を監視するよう呼びかけている。これにこたえて、ファイフとバンカーヒルの現在の母港であるサンディエゴとハワイから二艦の最新の情報が届いた。

### ファイフ

○「一月八日の金曜日に港の遊覧船からファ

合いで影響を持っている「有識者」たちだ。

この「提言」は米軍駐留費の日本による肩代わりなど、すでに実行に移されているものもある。

西太平洋における「日米共同」の役割の強調は、日本も含めたアジア・太平洋の人々の願いに正面から立ちあはだかるものだ。ピーススピリットは、西太平洋の地から日米政府のこうした思惑にクサビを打ち込む国際的な行動である。

ファイフの姿を見ました。引き続き情報を送ります。(サンディエゴ平和情報センターのキャロル・ジャスコさん)

○「今日(二月九日)ファイフがサンディエゴを出港しました。行先はわかりません。海軍は『近海を航海するだけ』と説明していますが、たぶんそれは嘘ではないでしょう」(同じく平和情報センターから)

### バンカーヒル

○「一月十日、バンカーヒルが戦艦ミズーリに伴ってパールハーバーに入港した。オマハ海峡における船団護衛任務からの帰途である」(一月十一日付け『ホルルル・スター・ブレティン』)



中国を訪問して

人民がもとめる  
「ゆたかさと平和」

吉田満智子

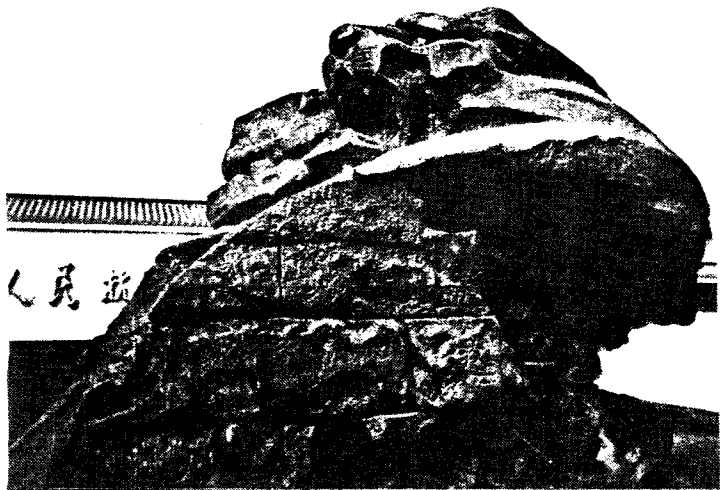
(トマホーク阻止京都連絡会)

暮れもおしこまれた十二月二十二日から三十日にかけて十三回党大会直後の中華人民共和国を訪ねることができた。中国人民爭取和平與裁軍協会の招請による反戦平和交流団の一員に加えていただけたことを感謝する。

協会は、医師、作家、弁護士、宗教家、青年など二十四グループ加盟の全国組織である。会長、周培源氏。副会長、趙樸初氏、柴沢民氏、他十四人。事務局二十人が、調査研究組織などの日常業務にあたっており、会員五億人とか。「核戦争反対。軍縮と世界平和」を唱え、国内的活動としては、一万人集会、上映会、音楽会、座談会、展示会、などの平和教育を行っている。国際的には、自主独立の立場で、ヨーロッパ、アメリカ、日本、オーストラリア、東ヨーロッパ、ポーランド、

ニュージーランド、そして第三世界各国など四十カ国、グループと友好関係を結び、日本の原水協、原水禁、平和委員会(創価学会)、地婦連などとの交流は古い歴史を持っている。今回の私たち、草の根平和運動との交流は初めてとあって大きな関心をもって迎えられた。

二十三、二十四の両日、北京で交流をもち、中日両国の報告がされた。二十四日の、副会



〈盧溝橋〉

「経済的發展が第一義であるが、平和な国際環境の中で初めて可能なことである。平和のための努力として百万の軍隊と軍事費の削減。核兵器は核脅威を防止するために持っているが、最初に決して使用しない。一貫して全面的核廃絶の主張をしている。外交政策としても、国連総会の中で全世界の人々と核兵器反対のための提起をしてきた。国際的平和活動を積極的に支援する目標をもっている。軍拡反対、核兵器廃絶が最大の目的である」。

「發展途上国の中でも遅れた貧しい中国——社会主義の初期段階の処置をしなければならぬ。そのために、外国の資本、技術を積極的に受け入れる。共産党一党を堅持しながら、解放中国の活性化のために外国の実状、西欧の思想からも学ばなければならない」と話される。

「特色ある中国の社会主義を建設する」という第十三回党大会の方針のもとに、人民のゆたかさと平和をもとめて動きだした解放中国。

「軍隊」の「正体」をあらわにした自衛隊

八七年秋の「異常事態」

大島 薫

(トマホークの配備を許すな! 反核北海道行動)



(トマホークの配備を許すな! 反核北海道行動)

戦車30両国道を走る  
別路町 労組員に反対集会

「砲弾、演習場外でさく烈」上富良野」  
(五月十九日付「北海道新聞」)、「本道有事に五千人。最大規模、今日特別演習」矢白別」(七月二十二日付「北海道新聞」)、「自衛隊、公園でゲリラ戦」八雲」(九月二十九日付「北海道新聞」)。そして「戦車三十両国道を走る」釧路町」(十一月六日付「朝日新聞」)、「今度は自走砲走る」名寄」(十一月九日付「朝日新聞」)。この「長距離軌道訓練」と称する戦車の国道走行に関して、北部方面総監副司令が北海道新聞のインタビューに「市民からの抗議や苦情は全くない」と答えたことに、抗議を申し

入れたその日に「公園でスキー訓練」旭川」(十一月十三日付「北海道新聞」)が発覚。さらに「超低空、今度は米軍機。日高沖から函館上空、爆音に苦情相次ぐ」(十一月十七日「北海道新聞」)、「超低空飛行は米軍大演習、有事想定し訓練」(十一月十八日付「北海道新聞」)と一面トップ記事が続く。北海道広しといえども、これだけ異なった事件が異なった地域でおこっているのを目にするのは、まさに「異常」としか言いようがない。道内二二町村の二割におよぶ市町村が何らかの形で過疎の特効薬としての自衛隊誘致運動を進めている現状が引き金になっ

いることは確かである。

しかし、「必要な訓練」「抑止力」「有事に備える」という言葉が何らの実態の根拠も無しに繰り返して使われているということに、私たちは注意を払う必要があるだろう。自衛隊は「軍隊」であることをあからさまにすることを、これまでは避けてきたはずである。

「基地開放日」などのイベント、大がかりな演習などによってアピールしてきたことを、「公道走行」によって市民の目に無理やり焼きつけようとする。早朝や深夜の実弾訓練、低空飛行によって刺激を与え続ける。ガイドライン安保、一％枠突破の戦略的意味が露骨に現れ始めてきているような気がする。

韓国の民主化へ動き、米ソ中距離核軍縮交渉と連なると思われるこれらの動きをしつかりと見極め、「核と軍事基地」の島への動きを絶対に許さない、民衆連帯を創りあげていきたい。

(八七年十一月中旬記)

この記事は昨年十一月下旬に執筆、送稿していただきましたが、スタッフの手違いで掲載が大幅に遅れてしまいました。筆者の大島さんには大変申し訳ないことをしてしまいました。紙面を借りておわびいたします。(編集部)

例年通り、最大規模…

# チーム・スピリット 今年も

「一時は中止決定」は作り事

今年も米韓合同軍事演習「チームスピリット」が行われる。期間は二月下旬から五月初めまで。例年に比べ、期間が少しおそくずれているが、昨年年の最大規模である。ところで、この発表と前後して次のような情報報道された。

「韓米両国は昨年末①九月のソウル五輪を控えた朝鮮半島の緊張緩和ムード作り②米政府の軍事費削減方針」などの理由から「チーム・スピリット八八」を中止する方針をいったん決定した（一月十九日『日経』）。しかし「大韓航空機事件が、朝鮮民主主義人民共和国の犯行であることが明確になったとの判断に基づいて」（同）「中止」方針を撤回、一転「実施」に踏み切った、というものである。

資料Ⅰ

## 『ソウル・オリンピック期間中 米空母戦闘団配備用意』

国財産の実質的移動」に言及した。

「ソウル UPI・連合」 米国はテロリストや北韓（ママ）からの攻撃からソウルオリンピックを防御するために、韓国へ軍艦と戦闘機を配備する用意があるとリチャード・アーミテージ米国防次官補が十二日述べた。アーミテージ次官補は、ソウル・オリンピックが妨害されないように保護するにはどんな種類の保安措置が必要であるかを決定するため、韓国軍関係者らとの協議を継続中であると語った。

彼は鄭 溶（チョン・ホヨン）国防長官との会談を終えた後、特に八八年九月十七日から十月二日まで挙行されるソウル・オリンピックの「安全を保障するための情報活動と米

また米国がソウル・オリンピック保護に必要なと考えれば、この地域に戦闘機を配備した空母機動部隊を移動配備させることができる」と述べ、このために米国は主要軍事公約を行う用意があると強調しつつ、「我々は喜んで兵力配置に関する軍事調整を行う」と語った。五日間の訪問のため韓国を訪れた理由の一つとしてアーミテージ次官補は、ペルシャ湾における米軍事防衛公約が韓国に対する米国の防衛に影響を及ぼすものではないことを韓国の軍事関係者らに確信させることにあると明らかにした。

（『東亜日報』八七年九月十四日）

しかし、これは「緊張緩和」に真向から逆らう自らの行為を一方的に朝鮮民主主義人民共和国側に責任転嫁するための巧妙なレトリックと言わざるを得ない。事実、この一年間米韓両政府間の一連のやりとりからわかるのは「演習実施」こそが「既定方針」であったということである。

昨年五月五日、ワシントンで第十九回「米韓軍事委員会」が開催された。この席上では「八八オリンピックを前後した北傀（ママ）の対南挑発に備え、米国側の早期警戒体制強化計画を今年九月までに樹立、来年一月から実施することで合意した」。さらに両国は「（オリンピック期間中の）米艦隊の韓

国近海での展開⑧八八および八九チームスピリット強化など、八六年アジア競技大会の時よりさらに強度の対応措置を講ずることと合意した」（五月六日『東亜日報』傍線筆者）。この会議から「六・二九民主化措置」を挟んで四ヶ月後の九月十二日には、リチャード・アーミテージ米国防次官補が「オリンピック期間中、空母機動部隊を派遣する」と言明している。（資料Ⅰ）

一月十七日、韓国民主回復統一促進国民会議（韓民統）、在日韓国青年同盟、在日韓国学生同盟の三団体代表は駐日米国大使館に「チームスピリット」中止を求める申し入れを行った。この時同大使館の安全保障担当官は「『中止する』という話は聞いたことがない」と答えている。これも「中止決定」が国際世論向けの「幻の決定」であったことの証である。

最後に昨年八月にソウルで行われた女性たちの反核行動を報じる「東亜日報」の記事を紹介しよう。依然として「核問題」がタブーとされる社会の中で現在の核状況について公然と政府に問い質した勇氣ある行動である。

（日韓連帯神奈川民衆会議  
翻訳 秋田郷）

資料Ⅱ

## 『核の脅威乗り越え平和築こう』

### 韓国教会女性連合会「平和のマダン」開催

「原爆被害後遺症生々しく告発 韓半島の核の実態公開質疑も」

韓国教会女性連合会が主催する第五回平和のマダンが、広島への原爆投下の日である六日から九日まで韓国教会百周年記念館一階小講堂で開かれている。原爆投下記録映画とスライド上映、被爆二世たちが作ったマダン劇、平和問題の公聴会等で構成されるこの平和のマダンは戦争と核の危険を追い払い、平和を築こうという平和運動の一環。

『お母さん、おばあさん、子供の口がおかしいよ』『ああ、かわいそうなことだよ、父母を間違えた罪で…』『神様も無邪気ではないっしょいます。あの苦痛でも足らず、新しく生まれてきた子供にまで…』

原爆の後遺症で口蓋に孔のあいた子供を産んだある被爆者の家庭の不幸を被爆二世たちが直接芝居に仕立てて見せてくれた。現在、韓国国内には、日本に徴用や徴兵で連行されて原爆にあった直接負傷者とその後遺症を患う二・三世が二万余りに達するものと推定

されている。

記録映画「予言」は広島と長崎の原爆投下を、当時米軍当局が撮影したフィルム。韓国で初めて公開されるこの映画は原子爆弾が起す火の爆風、わずかに二発で十四万七千名（広島）と四万七千名（長崎）の死傷者を出した原爆の殺傷力を生々しく見せてくれる。

また、教会女性連合会が「現在韓国半島には核が配備され核戦争の危険が常に存在しているにもかかわらず、国民にはその実状が隠されている」と前置きして、今回の平和のマダン開催に際し政府に向け△韓半島に核は必要か △核は誰の決定により使用されるのか △核戦争の可能性はどの程度なのか △核戦争が起こった際の国民の安全に対する計画はどのようなものか、を問う公開質問状を送った。

（『東亜日報』八七・八・七）

# 核も原発もいらない "反核独立太平洋の日" 2.28(日) 東京集会

午後1:00~4:30 入場カンパ800円(希望者500円)  
千駄ヶ谷区民会館 2Fホール (原宿駅より徒歩10分)

MOVIE 1986年オランダ  
トキエンタリー カラー16ミリ 60分  
**パシフィック**  
PACIFIC Paradise in pain  
(世界中の核被害者、悲しい写真)

世界の核被害者  
豊崎博光  
海のINF  
ヨシタケトシキ(肥後)  
写真家  
新倉裕史  
核と太平洋を語る  
高木仁三郎

フォーミンス



●呼びかけ ●日本カトリック正義と平和協議会 (264)5714

ブルニウム研究会 (832)1937

トマホークの配備を許すな! 賛同者連絡先 (478)6095

反核パシフィックセンター東京 (03)1648

●連絡先 ●反核パシフィックセンター東京 〒113 中央区文京区内6-1-3 自主講座内  
☎03(815)1648 (午後1時 受付)

## 会計報告

(88・1・17~2・14)

### 〔収入〕

○前月からの繰り越し △453,296

経常繰越 △27,296

借入金繰越△426,000

○会費収入 37,000

「維持団体 4,000

維持個人 7,000

参加団体 12,000

参加個人 2,000

通信会費 12,000

○カンパ 43,000

○在庫売上 7,000

○反核ホットライン 12,580

(会費、パンフ等売上)

＜計＞ △353,716

### 〔支出〕

●家賃 40,000

●電話代 6,780

●郵送費 53,640

●文具代 910

●印刷費 1,900

●雑費 3,990

●反核ホットライン経費 5,960

●手数料 (郵便振替) 960

●その他 (第三種郵便認可申請料)

50,000

●次月への繰越 △517,856

経常繰越 △91,856

借入金繰越 △426,000

＜計＞ △353,716

### 訂正

前回の会計報告で、「支出」の項の次月への繰越金額がまちがっていました。今号の「収入」の項の前月からの繰越金額が正しい数字です。

### お願い

財政状況が非常にピンチです。是非とも未納会費を早急におくってください。あわせてカンパへの協力をよろしく願います。

事務局一同、ピース・スピリット

の成功とファイフ、パンカー・ヒル

母港化阻止のため頑張ります。

財政が  
追い迫っています

会費納入と  
カンパを!

月刊反トマホーク通信 No 28

一九八八年二月二〇日発行

\*発行 トマホークの配備を許すな全国運動

〒一五〇東京都渋谷区渋谷二一五―九バ

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

\*編集 反トマホーク通信編集委員会

\*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)